



一三二
一三三
一三四
一三五
一三六
一三七
一三八
一三九
一四〇

洛下

山亭

俳諧をくまひ綱目大成目録



一 俳諧之事	五丁目	二 俳諧六体	五二丁
三 俳諧六義	二丁	四 俳諧諸部之發句	三三丁
五 俳諧字体	七一	五 俳諧大意	八丁
四 等類差別	十一丁	六 發句切字并習字四字	三三丁
七 現在哉、まか	九丁	八 三乃一	九丁
九 身代不のぬ	九丁	十 七のゆや	九丁
十 少留おろし	九二丁	十一 ふうりよ三字	三三丁
十三 謎をくまひ下とく集	三三丁	十二 下の句とこち	九丁

⑤	下の句ふら	廿四丁	⑤	法くときり	廿四丁
⑥	又ゆときり	廿五丁	⑥	こそてふえ	廿五丁
⑦	云のこころ	廿六丁	⑦	く祓字はま	廿六丁
⑧	治定しとらぬ字	廿七丁	⑧	まらえ	廿七丁
⑨	治定のり	廿八丁	⑨	あふひはた	廿八丁
⑩	八字は府所	廿九丁	⑩	二句二句は成句	廿九丁
⑪	指合の沙汰	三十丁	⑪	同字別吟	三十丁
⑫	句數并去嫌	三十一丁	⑫	神祇之詞	三十一丁
⑬	非神祇詞	三十二丁	⑬	尺教之詞	三十二丁
⑭	非尺教之詞	三十三丁	⑭	徳之詞	三十三丁

⑮	非徳詞	三十四丁	⑮	無常之詞	三十四丁
⑯	述懐之詞	三十五丁	⑯	非述懐詞	三十五丁
⑰	人倫之詞	三十六丁	⑰	非人倫詞	三十六丁
⑱	居所之詞	三十七丁	⑱	非居所詞	三十七丁
⑲	夜分之詞	三十八丁	⑲	非夜分詞	三十八丁
⑳	山類之詞	三十九丁	㉑	非山類詞	三十九丁
㉑	水邊之詞	四十丁	㉒	非水邊詞	四十丁
㉒	四季之詞	四十一丁	㉓	面八句は裏頭奉句	四十一丁
㉓	百韻并早四句歌仙	四十二丁	㉔	臨席覚悟	四十二丁
㉔	執筆法様	四十三丁			

○チウキウシ

一丁頁

○

○

一丁頁

漢和式

- | | | | |
|----------|-----|-----------|----|
| ① 第唱句之事 | 一丁頁 | ② 二四不同之事 | 一丁 |
| ③ 四字一平之事 | 二丁 | ④ 辭下三連之事 | 二丁 |
| ⑤ 平仄起之事 | 二丁 | ⑥ 漢和一連法之事 | 二丁 |
| ⑦ 對句之事 | 五丁 | ⑧ 假名書之事 | 六丁 |
| ⑨ 連綿字之事 | 七丁 | ⑩ 二物之事 | 八丁 |
| ⑪ 三物之事 | 九丁 | ⑬ 底送之事 | 九丁 |
| ⑫ 朱引之事 | 一丁 | ⑭ 文字用字之事 | 一丁 |
| ⑮ 〇書之事 | 一丁 | ⑯ 四書之事 | 一丁 |

一 誦諧之事

眞系抄云漢書此語皆諧語之清妙者也。和玉也。
 史記滑稽傳考物云滑稽者酒也。言成章記
 不寤者若滑稽也。○誦諧之事。○心之
 たりて世人戲言と云り必しと云り。滑稽者
 滑稽者ハ道ヲ入りてて云る事也。又滑稽ハ
 五道より入りて。多岐多岐と云る事也。故に
 此種之ヲ執年流利は乃る。その言語は。滑稽
 を水女のいふ可也。或ハ和玉也。多岐多岐と云る事也。

此中又ふまこめ詞よめりてんる七

八雲御抄云或は曰離落有秋之能落二能落三能落四骨
極云五落能一詠一六謎字七空感八鄙後九投言一担
或義能落八能もらるとに担之能落八能也云引く心也
能落八能もらるとに担之能落八能也云引く心也
てて能もらるとに担之能落八能也云引く心也
謎字八能もらるとに担之能落八能也云引く心也
鄙後八能もらるとに担之能落八能也云引く心也
とらるとに担之能落八能也云引く心也

(二) 俳諧六作

心無鏡 みる人おむるねりこしや妹乃月

詞糸鏡 乃く付よふてはるげ代わがざり縄 可全

心利口 負ともふふふふふふふふふふふふふふふふ 正芳

詞利口 けいふふふふふふふふふふふふふふふふ 利貞

心狂 小傾城はきこてあふらん来れ暮 其甫

詞狂 系流もたむかひはなふ七名来 其甫

右六作引寄りしは奥義抄より引く心也
能落の句も山云体とつるよめあし
けりて他とそしるるものなれど

無常

うき事ノ味おろ人集る秋ノ夜

晚

表傷

かく本^{四十四中}かろく^{あま}あほ^まほ^まい^まい^ま

和

辞世

我が^{ヨク}ころも^{ヨク}回^{ヨク}す^{ヨク}花乃^{ヨク}奉^{ヨク}る^{ヨク}白^{ヨク}井

和

退善

人の^{ヨク}子^{ヨク}々^{ヨク}い^{ヨク}ら^{ヨク}う^{ヨク}ま^{ヨク}し^{ヨク}も^{ヨク}菊^{ヨク}を^{ヨク}も

方山

懐旧

お長^{ヨク}の^{ヨク}基^{ヨク}而^{ヨク}り^{ヨク}け^{ヨク}く^{ヨク}る^{ヨク}遠^{ヨク}も^{ヨク}ら^{ヨク}ば^{ヨク}さ^{ヨク}く^{ヨク}

竹著

述懐

君^{ヨク}の^{ヨク}力^{ヨク}や^{ヨク}か^{ヨク}く^{ヨク}て^{ヨク}菊^{ヨク}を^{ヨク}さ^{ヨク}け^{ヨク}

軒柳

借移

浴^{ヨク}志^{ヨク}荷^{ヨク}果^{ヨク}報^{ヨク}く^{ヨク}人^{ヨク}乃^{ヨク}家^{ヨク}居^{ヨク}り^{ヨク}の

短足

名所

山^{ヨク}の^{ヨク}也^{ヨク}さ^{ヨク}く^{ヨク}て^{ヨク}蛙^{ヨク}と^{ヨク}水^{ヨク}乃^{ヨク}底^{ヨク}

鬼貫

器物

か^{ヨク}う^{ヨク}く^{ヨク}も^{ヨク}也^{ヨク}お^{ヨク}家^{ヨク}の^{ヨク}物^{ヨク}の^{ヨク}高^{ヨク}雄^{ヨク}山^{ヨク}

赤云

鏡別

所^{ヨク}の^{ヨク}志^{ヨク}も^{ヨク}や^{ヨク}く^{ヨク}て^{ヨク}い^{ヨク}は^{ヨク}る^{ヨク}も^{ヨク}す^{ヨク}

霞艇

御作

み^{ヨク}ら^{ヨク}智^{ヨク}ら^{ヨク}ぬ^{ヨク}ら^{ヨク}を^{ヨク}の^{ヨク}表^{ヨク}也^{ヨク}秋^{ヨク}を^{ヨク}さ^{ヨク}す^{ヨク}

暮四

法寶

月^{ヨク}花^{ヨク}は^{ヨク}く^{ヨク}れ^{ヨク}も^{ヨク}ぬ^{ヨク}く^{ヨク}の^{ヨク}主^{ヨク}也^{ヨク}遊^{ヨク}

大成

自盡

あ^{ヨク}ら^{ヨク}く^{ヨク}し^{ヨク}け^{ヨク}我^{ヨク}も^{ヨク}ま^{ヨク}の^{ヨク}き^{ヨク}秋^{ヨク}は^{ヨク}な^{ヨク}れ

全

笑

お^{ヨク}ら^{ヨク}く^{ヨク}も^{ヨク}年^{ヨク}く^{ヨク}れ^{ヨク}は^{ヨク}乃^{ヨク}す^{ヨク}る^{ヨク}所^{ヨク}也^{ヨク}代^{ヨク}

普醉

對

親^{ヨク}の^{ヨク}谷^{ヨク}子^{ヨク}ハ^{ヨク}山^{ヨク}名^{ヨク}乃^{ヨク}系^{ヨク}け^{ヨク}く^{ヨク}す^{ヨク}

正由

文字

破^{ヨク}を^{ヨク}ま^{ヨク}合^{ヨク}と^{ヨク}人^{ヨク}乃^{ヨク}力^{ヨク}乃^{ヨク}ぬ

ふ

古事

伊^{ヨク}勢^{ヨク}海^{ヨク}を^{ヨク}也^{ヨク}秋^{ヨク}を^{ヨク}さ^{ヨク}す^{ヨク}る^{ヨク}所^{ヨク}也^{ヨク}

無終

本流

名^{ヨク}と^{ヨク}句^{ヨク}は^{ヨク}下^{ヨク}ま^{ヨク}す^{ヨク}く^{ヨク}て^{ヨク}社^{ヨク}の^{ヨク}也^{ヨク}

成之

心無

河能

心無

寂

老

加

無

感

只

あひかしておろすき 作

猶乃こまゆりび乃貝や斤

同海さうふやとかんれ小

月形ら柳らりれふあ

う乃ねやえぬれ橋か

傘工が目おと星の

皇正のよして三月七日八月

音か身に秋風を

もふあともく

二九

二九

二九

二九

二九

二九

二九

二九

二九

か

あ

み

何

火

あ

破も葉の石

上童やと

毒

星

坂

か

之

本

桶

調柳

曲吟

竹

常

道

道

道

道

道

くさ成しあはくらすてふ
味なりふれぬぬぐれも
鱒乃き蓮とく人事多れ
蓮籠乃せしゆもさき
六月や事いまよく流山
おまきへゆれ樽と地と捨小船
麦冷し福とあどつり
蓮池より生して蓮の
露の結るあまらうゆり
三水
和石
言水
菖蒲
菖蒲
明水
目
目

ぬくくたき
三芳壁の花はけり
殊乃善灯や茶さしと
花のよき風や柳のよき
作者
越人
林

五佛滑三侍

雲侍 月よけのしりぬりや
行雲 天ももろくも
廻雪 明凡れ相も
長崎侍 峯乃雲す
高月や豊乃人よ
其角

遠白 徳水 聖徳 物教 不心 理世 松氏 至極 麗本

月乃あを呼りて知るや天に
煉よとび水すにほや流乃城
世すつとして道踏をしつた
もあはれ母のこは世はほいまを
花の甲し侍ハ上野の浅草
妹凡のいしりきり久き良
山中やあはれもわし湯の白
養ひまじし鳥のけしき
しつたせ成とのと何糸のし

五神 聖徳 友九 明水 とも代 松氏 長風 春四

松氏 松氏 松氏 松氏 松氏 松氏 松氏 松氏 松氏 松氏

あはれ母のこは世はほいまを
花の甲し侍ハ上野の浅草
妹凡のいしりきり久き良
山中やあはれもわし湯の白
養ひまじし鳥のけしき
しつたせ成とのと何糸のし
あはれ母のこは世はほいまを
花の甲し侍ハ上野の浅草
妹凡のいしりきり久き良
山中やあはれもわし湯の白
養ひまじし鳥のけしき
しつたせ成とのと何糸のし

竹亭 竹亭 竹亭 竹亭 竹亭 竹亭 竹亭 竹亭 竹亭 竹亭

一頁

系曲

農本

様体

様体

強力

強力

鳥の二足も成して夕...

松崎や日けりよの年月...

きくわんし希花咲垣根...

ひりにさす懸るもあし...

富士へ八月をたす様や...

何をさしては岸乃八月...

本を伐して投りたりや...

んま

進

心ま

其角

鬼貫

明

(三) 俳諧大意

詠物ハ句といふは古今ハ...

かど用也ハ詠物ハ句といふは...

又連他兩用ハ詠物ハ句といふは...

又連他兩用ハ詠物ハ句といふは...

又連他兩用ハ詠物ハ句といふは...

又連他兩用ハ詠物ハ句といふは...

又連他兩用ハ詠物ハ句といふは...

又連他兩用ハ詠物ハ句といふは...

又連他兩用ハ詠物ハ句といふは...

又連他兩用ハ詠物ハ句といふは...

めきしあへく此一字と其の字の異は...
 ういなるおのまふいしきしぬ...
 又連の面より...
 出さるる百韻は...
 早菫や... 竹田乃里...

ぞごりふ系是は竹...
 例ありとも其所...
 雪と多くむし...
 類はちきく...
 此も他あり...

なりて元魁に用か白又多のりて其境より一
より之亦能て者さく其白は金主なるをり
毛と足者志がし橋りかしの連なるを
人もやう毛に非正道進正道此乃其教乃し
乃境よりいゆる人志俱に凡境修乃其
ゆれさるりふゆく保らんゆめなりて
は

① 等類考
に

白にゆりたりして人其他ありありありあり

他よりてきんやりてまうながしゆをまおとす
ありやりのりてゆりて中んぬのり人極と
本妻小のりゆを郭子ゆりゆりゆり
と盗出家かしくも育りてゆす下ゆりゆり
とと等類とゆげれとゆゆりゆりゆりゆり
まゆゆゆりゆゆりゆゆりゆゆりゆゆりゆゆり
とゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
まゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

つうむくもを荒屋に結ぶ

又

虎の尾をまきつうむくもを堂

の毒やほむまうくぬ後を

右の句ごもいほむまうくぬ後を

ハ鷄の苑母かういほ荒屋に食乃後を

虎の毒ぬ毒乃句をまきつうむくもを

つうむくもを常しつうむくもを

つうむくもをいほむまうくぬ後を

乃其人のね母を

ほむまうくぬ後を

のうむくもを

虎の尾をまきつうむくもを

猫毒やまきつうむくもを

つうむくもをいほむまうくぬ後を

つうむくもをいほむまうくぬ後を

其語謂之換骨は

子に白くしぬりつうむくもを

は門ぬ躍しすまのから
くわのふ心かよひ初名別の物よ
容之謂く集胎はごりたよちくやゆ
景秋

五 後の切字

信徳
集堂
因春
林下
一言
活きの式 高皇よりあつたれ林
櫻川常乃たぬのれまて
藤よりハひきまぬひさけ
まの字を
てまの字
霜は

わくも初雷はつみびより
んありのるもたむらもまら
こまのかり海乃高成秋のくれ
木の果有かり海のとと
社ありを練ゆたののぶう
をれくも糸向人月の暮
都らん小備王織たう所
徳のまにくも人社
風をのぶとくひま
加
高
五
桃
言
一
信
和

かしき 傾城は親みどかか他乃 死
院海乃のりひん曳りたか月
中ね 葉乃の根根とくし根 一萬番年
哉ふふ うちたあにちくともひの聖具命
やい 福寿まやひのあは毒あ花
うい くらくふ種は科くん及乃こ
しき せんハハとめきくままハ花菴
いひ 白多は價りつひしとくしみるん
あひ 貴ふふふふふふふふふふふふふ

和及 古根 如泉 一水 富石 阿木 芭蕉 危費

いよ 悠らけくし海ふかして長なり
いよ 扇形いふ物さるけりハ
いよ 毒柳いばはき階ふたのし
いづ 倭花は出流いづと細代 奇
いづ 月そよ木枯いづらふ木え
いづ 蘇花はつるめさるいづと折くさ
いづ かいよき人御社さばくともはわ
何 五月雨何を葉よ及くあ人
水仙ハとかく何そのあふ

何分 十取 草株 手我 草花 前草 鞭者 聖草

かぞ
いく
まを
まを
まを
か
い
ま

人前よりいそいでおぼろし
あとのいそいでいそいでいそいで
わがふれふあはれは乃わ
色とぬれそ強くつと新い
おふ存りしてたつてうよ初
紫判てぬかともとくさ
あぶ云よいつれ物してま一穂
ははらう穢ま清水は乃
系いそひは田家者まうこ

藤水
其角
留白
常世
明水
玄紫
李岑
和耕

いざ
よ

いざらうとておぼろし
月とつれは乃よ一か
白魚は餅よあつた水乃わ
みるあふんくつとたおろし
蓬菜よあつたいそいで
内裏へはまきまきつと
右足長は四十に足と若
わらふ鞭りよとれ
鳴麻とさかすつておぼろし

芭蕉
か併
身隆
幸佐
山市
馬鹿
元雪
松木
不雪

や
 こころは松丹のまはるく
 とくくわみそとて愛れく
 水とてや照を産もわ
 花まはれおよしく人とかぬ人
 有るやとまりのりまて初母
 白雲のそらや日影は
 衆のふらうく何かくて島島
 乃くそまを切らとられお梅り
 加生 軒播 梵亦 随去 不在 兵角 極氏 久元

下知

よ
 うはつとていなりん見き
 心ゆくも炭^金電^金はくれ芳野山
 又ふふいふとみとのぬけ
 常位とゆふしひまの麻の
 りくははてきうりまはれ
 はあてゆかあまはるうぐり
 うこにまてをくりす人
 あいあくと廓^カまがら
 唐路乃雲あはあ
 志林 七持 道所 彫書 竹亭 竹音 云衣

れりきしひらひら切字に用ひ
但高田のひらきとてはなほかぬ
二字切

目と書ぬくやまよりと女七又
風虎

ほもしゆ笑とてんニツ星
風

三字切 ろのくみはけりもあし梅乃花
貝室

六とあり一の切字
おみまのいとも踏と花の雪
五雲

同 一の切字有て下と試留
薫よりく福乃るあつて門のま
一春

同 一の切字有て下と試留

煤のくくあたる東乃るんか
梅洞

傳よ後よまふる女をなると山子有るも
得よ後よまふる女をなると山子有るも

同 一の切字

初長とわりのつとてはなほかぬ
初長とわりのつとてはなほかぬ

傳よ七文字の終とてはなほかぬ
傳よ七文字の終とてはなほかぬ

同 一の切字

同 一の切字

同 一の切字

同 一の切字

同六画

しんまていばあひまひん

虎

しんまていばあひまひん

同五画切

しんまていばあひまひん

林

しんまていばあひまひん

しんまていばあひまひん

同切字

しんまていばあひまひん

鳥

余の茶にぬるといふ

和友

怖れしむる人なり

其角

しんまていばあひまひん

とふしむる

右切字も大概とゆふゆり

の切字も大概とゆふゆり

とふしむる

かたはら

しんまていばあひまひん

ふる人らむしむらうとくしやる。

松が有りしむてくらく松しづら

又いさし乃二字の連歌をもなまらふあつらんしゆ家
殊り、あつらひ能く人の用ひあつらふとくしやる
白くしつてすしん

⑦ 現在の歌 ころも歌

現在の歌 夏白くしつてくらく松しづら

ころも歌 平岡松しづらころも月れとてぬら

ころも歌 平岡松しづらころも月れとてぬら

⑧ ころも歌 現在の歌

あつらひしつてくらく松しづら

⑨ ころも歌 現在の歌

あつらひしつてくらく松しづら

ころも歌 現在の歌

⑩ ころも歌 現在の歌

あつらひしつてくらく松しづら

ころも歌 現在の歌

あつらひしつてくらく松しづら

三

三

のすし...
又...
き...
く...
⑩七...
...
...
...
...

切や
此や...
持や
類乃や
此や...
あや...
中乃や

此は...
コトヲ
更級^{ワラキ}月...
...
...
不素...
...

右...
①...
...
...
...

も 行夏も道は行くさうにさういふて
かきぬ 龍の世は昔のさうかきぬ奈は
都は徳とあつて不自中して

此系く又

教生舎殊よ名海ある者として
信よふこと白の教生舎いしは字とらひり
よつてあをさうあふぬ又やまるとし又白中して
二所一抱くさう白とあり

美植き一花とあつていふか

又けつらういふてさういふ事か
あつりてさうあつてさうあつて
うもつて虚字あるはさういふてさういふてさういふて
てさういふて

①引外れりて字と押字

ぞ 魚乃名と何ぞいふてさういふて
ろ 幾人いふてさういふてさういふて
よ さういふてさういふてさういふて
さういふてさういふてさういふて

引れたる人々をわきまへし

⑤ 上よりうごひの文字有てて留る仕様

松云白の申は何いふやいふと云れ別を云
うごひの字有てててと云ふもあつて然れ
どもあつてにらりてあつて

いふまゝにちんあつてむの枝をきく

いふまゝにちんあつてむの枝をきく

いふまゝにちんあつてむの枝をきく

口傳のまじりてうごひの字有ててても眼系はうら

物とらへて定まるあつてあつてあつてあつて

⑥ 下はつちてどち

藤みは月のあつてくさして

申よひのうらひの飛とたりらて

此二白の字をうらててまき入

⑦ 下はつちてどち

舞は芝の月あつてあつて

下れるはよあふ葉裁くしてうらひのあつて其路
用ひまじりてあつてあつてあつてあつて

去留

まじりてつとをと猫とす
上るはば、後ハかりとらむとらむして多下
兼虎杖かりりて世に

下は白のほくさあらねもあつひそほつたれ
とまじりてつとをとらむとらむ

佛よせりひねりてつとを

口傳よま下は白のほく留いさむさむ
あつてつとをとらむとらむ

去留

う

と

す

の

ぬ

ふ

ひ

ゆ

去葉乃ありと塔二あり

小棟繩年と人好ゆり

門法乃あつかりりて

伏見ハ焼場をありり

まじりてつとをとらむ

細くつとをとらむ

暮の夜目くらりて

送る火ひさりて

ろ 花をば花枝より 甲かきも

大なるかやうにしてさき多かり又さきくして
留るる剣もあつてさきくしてさきくして
やかじまうしと也

① 了りてさきくしてさきくしてさきくして

せ せ せ せ せ せ せ せ せ せ

昨ともしほくも練耳のりくも

炭火のりくも 燈のりくも

言は葉よ骨のりくも ぬりくも

徳のりくも 人のりくも

親のりくも 子のりくも

聖女のりくも 女のりくも

このりくも ちのりくも

さのりくも ひのりくも

② りのりくも 木のりくも

十九 伽藍のりくも 寺のりくも

十八 塔のりくも 石のりくも

十六 土のりくも 月のりくも

天のりくも 地のりくも

十五 懸してハ書けあひひりたる

⑨ ねま

私云らんことくじらんぬあぞ
かたきあひひりたる
いしきいしきいしきいしき
いしきいしきいしきいしき

あぞ 地らんとくしけんとして知らん

まき かしね鏡こしをれけんけん

いろ ぞやあひひりたるいしきいしき

いし 鏡こしよけんけんけんけん

や みくろことくや 白髪わくえ

ねあとりくことめまよ及ん又けんけんけんけん

白所よそけんけんけんけんけんけんけんけん

いしけんけんけんけんけんけんけんけんけんけん

あひひりたる

⑩ 洛定してねま

ろ ちるこびてこくけんけんけんけんけんけん

そ ねり書強さけんけんけんけんけんけんけん

ま ねり書強さけんけんけんけんけんけんけん

何れ何れにせむ
つらつらとせむ
ゆふの暮るるを

⑤ 一白二白三白

そりての世をゆく人
あつちやふと
つらつらとせむ
他人の世をゆく人
つらつらとせむ

⑥ 一白二白三白
つらつらとせむ

あつちやふと
つらつらとせむ

つらつらとせむ
つらつらとせむ

あつちやふと
つらつらとせむ
つらつらとせむ

①文字傳の口傳

又字傳はよたまりて一紙一紙も傳つやうに
してゆくべし。口傳云ふなり。と傳へらるる
事一紙一紙とて又字傳はよたまりて一紙一紙も
傳つやうにしてゆくべし。

②指令之沙汰

一、わいのりつ法とらん、連歌歌式もあつて、
了勢らるるく、落りの者て、
五の品賣へ一切と分別と用持と、
これ皆宗近紙巻の四のよめ、
其伝ワラ、
貞徳の連歌一症は、
とて、
あつて、

子あはれ披^フ我^カ席^{セキ}の^ハ琴^シと^シ若^ニ鳥^トも^シめ^ク白^ク紙^ヲを^シ妙^クひ^クと
平^ナ括^クは^シと^ク大^ニ命^ヲ勿^シひ^テい^ハま^シあ^リ制^シ人^ノ心^ヲの^事に^たま^ま
一^トと^シと^シあ^リと^シこれ^ハ四^ノ八^ノと^シ一^トと^シ又^ハ暗^クや^リ死^ス人^ノを^シ白^ク紙^ト
か^ハ河^ノに^しら^んと^シら^んあ^らま^しひ^く人^ノ命^ヲと^シら^んあ^らま^しる^事を^シの^がせ
後^クう^レ白^ク遠^ク離^レ放^スと^シあ^らぬ^事あ^らん^事も^シら^んあ^らま^しる^事を^シの^がせ
や^らん^所の^事を^シ貴^シ命^ヲ人^ノ初^メを^シの^事を^シあ^らま^しる^事を^シの^がせ
あ^らん^事も^シ折^ラう^レ一^ノノ^事を^シあ^らま^しる^事を^シの^がせ
と^シあ^らま^しる^事を^シの^がせ
か^ハあ^らま^しる^事を^シの^がせ

同字別吟

春日^{カスガ}よ^も曇^もも^日も^も 筑^{ツクシ}紫^シよ^も山^{ヤマ}志^シ物^{モノ}よ^も船^{フネ}者^{モノ}我^ガ物^{モノ}
物^{モノ}令^ノよ^も命^ノ 弥^ミ施^シ孫^ニ初^メよ^も孫^ニ代^ニ物^{モノ}
閑^{クワン}白^{ハク}よ^も笑^{ハク}中^{チュウ}凡^{ヘン}よ^も中^{チュウ} 南^{ナン}無^ムよ^も無^ム水^{スイ}様^{ヤマ}よ^も
操^{サウ}行^{コウ}よ^も竹^{チク}軒^{ケン}よ^も花^{ハナ}抄^{ショウ}難^{ナン}條^{ジョウ}よ^も波^ハ将^{シャウ}軍^{ケン}よ^も里^リ
天^{テン}智^チ天^{テン}皇^{クワン}よ^も天^{テン}目^メ主^{シュ}水^{スイ}よ^も水^{スイ}比^ヒ茲^シよ^も孫^ニ金^{キン}よ^も
子^コ孔^{コウ}雀^{ソク}よ^も雀^{ソク}垂^チ蘭^{ラン}盆^{ボン}よ^も蘭^{ラン}三^{サン}月^{ゲツ}よ^も日^{ニチ}

同上

五

蝸カキ。日ヒも暮クも山ヤマは羨ウラヤミ。今朝ケサは今日ケ皆是コト
 年トシ是ケレバ日ヒも今イマのまマんンかカ。後ノチ日ヒは日ヒ陰カゲ
 昨キノ日ヒは不フ嫌ク月ツキはさサみミだダれレとト思オモひヒとト思オモひヒ
 生ナマのノ心ココロはハ上ウヘ戸ド下シタ戸ド天下テンカは下シタ初ハジメ
 芙蓉フヨウ泉イハヒ海ウミ月ツキ月ツキ西セイ王オウ母ボはハ女メ百ヒャク谷コ
 花ハナは百ヒャク字ジのノ数カズをヲこコしシくク大ダイ概ガイ是コト
 准スベシ味アジをヲべベいイ

④ 句数并去嫌

云クモ秋アキ ニハツトハツト
 神カミ祇ヒメ ニハツトハツト
 本ホ原ハラ ニハツトハツト
 意イ比ヒ ニハツトハツト
 水ミヅ色イロ ニハツトハツト
 所トコロ ニハツトハツト

夏ナツ冬フユ ニハツトハツト
 秋アキ反サカサマ ニハツトハツト
 人ヒト佛ブツ ニハツトハツト

所トコロ ニハツトハツト
 意イ比ヒ ニハツトハツト
 水ミヅ色イロ ニハツトハツト
 人ヒト佛ブツ ニハツトハツト
 所トコロ ニハツトハツト

三言 旅
三言より多いこと
てもう旅の字に三

三言 生類
三言 虫 魚 鳥 獣
そのうちいろいろ

三言 植物
三言 草 竹 木 花 果
いろいろいろいろ

三言 名所
三言 山 川 池 井
いろいろいろいろ

三言 長分
三言 山 川 池 井
いろいろいろいろ

三言 陰物
三言 山 川 池 井
いろいろいろいろ

三言 汲水物
三言 山 川 池 井
いろいろいろいろ

三言 生類
三言 虫 魚 鳥 獣
いろいろいろいろ

三言 植物
三言 草 竹 木 花 果
いろいろいろいろ

三言 衣類
三言 布 絹 紙 綿
いろいろいろいろ

三言 園名
三言 山 川 池 井
いろいろいろいろ

三言 田名
三言 山 川 池 井
いろいろいろいろ

三言 天象
三言 雲 霧 雨 雪
いろいろいろいろ

世 神祇之詞

大嘗會 新嘗會
日蔭乃日蔭乃
宮后 行宮

法 荒社 社権 社取
鳥居 朱鳥の鳥居
鳥居 鳥居

丸木 玉垣 葛の玉垣
行宮 鳥居
鳥居 鳥居

祿殿 御供養子
御供養子 御供養子
御供養子 御供養子

長安 御供養子
御供養子 御供養子
御供養子 御供養子

御後 御供養子
御供養子 御供養子
御供養子 御供養子

神示 カシラ 里非系いつもる カシラ 神靈 カミ 系 カシラ 神示 カシラ 神示 カシラ

御幣 ミタマ 大ね カシラ 御幣 カシラ 御幣 カシラ 御幣 カシラ

拍掌 カシラ 迎拍 カシラ 送拍 カシラ 御贖物 カシラ 御贖物 カシラ 御贖物 カシラ

御火燒 カシラ 齋 カシラ 精 カシラ 物忌 カシラ 誓 カシラ 多 カシラ 起請 カシラ 氏神 カシラ 氏神 カシラ

打火 カシラ 切火 カシラ 鎮守 カシラ 寺 カシラ 洗茶 カシラ 法 カシラ 夫痛馬 カシラ 胎 カシラ

致生會 カシラ いま カシラ 岩系 カシラ 植 カシラ 植 カシラ 植 カシラ 植 カシラ 植 カシラ

奉 カシラ 奉 カシラ 常陸 カシラ 節 カシラ 東 カシラ 極 カシラ 乙 カシラ 女子 カシラ 候 カシラ 講 カシラ 初 カシラ 午 カシラ

小忌衣 カシラ 大忌衣 カシラ 庚申 カシラ 侍 カシラ 月侍 カシラ 日侍 カシラ 遷宮 カシラ 行 カシラ

雪非律祇綱

元方 カシラ 年法 カシラ 男山 カシラ 住保 カシラ 龍回 カシラ 橋 カシラ 橋 カシラ

新神 カシラ 新 カシラ 新 カシラ 新 カシラ 新 カシラ 新 カシラ 新 カシラ 新 カシラ 新 カシラ 新 カシラ

西尺教之類

佛像 カシラ 本像 カシラ 皮像 カシラ 立像 カシラ 元祖 カシラ 祖 カシラ 祖 カシラ 祖 カシラ 祖 カシラ 祖 カシラ

儒祿 カシラ 禪 カシラ 師 カシラ 長老 カシラ 上人 カシラ 和尚 カシラ 西堂 カシラ 東堂 カシラ

首座 卷王 典主 書記 行堂 宿寺 僧都 注下

注眼 注橋 行閣 梨栴 栴 頌亭 坊友 注神 注神

禪門 入道 多心 新多心 比丘 比丘尼 尼坊 注

坊 大坊 六坊 里坊 僧 老僧 又僧 後僧 又僧 又僧 出家

沙門 衆門 釈氏 沙弥 寺 律寺 律寺 眞寺 山寺 古寺

三井 初井 塔中 内 堂 後堂 茶室 古堂 尺かき 護広堂

伽藍 塔 尾塔 中塔 石塔 九塔 務藏 回廊 方丈

厨 眠 菴 屋 行人 山伏 以 施 輪 室 加 袈 裟

珠 數 白 八 幡 子 花 四 輪 拂 子 印 じ じ ぶ

法 化 所 修 行 導 師 喝 食 鉢 扣 看 住 知 塔

五 輪 去 絹 十 德 以 襟 條 懸 金 剛 杖 杖 噴 後

危 後 鏡 鉞 鱗 以 木 魚 瑠 璃 淨 經 帷 子 鉢 盂 承

談 義 法 義 義 産 禪 灌 頂 施 我 忍 布 以

功 德 周 果 地 獄 流 轉 三 皮 十 皮 常 灯 火

省業 常香 五山法河 空 現云 悟道

陪堂 奇 六每日 系湯 迴向 結岸 命日

途云 住 牌 六道 菩提 持戒 破戒 外道

紫竹林 室戸 開伽 三乃車 火宅 禁足 厥危

諸佛名 菩薩名 祖師名 夏宛 交申 交行 交書

實以通 三具足 華憐 天蓋 九石 基

⑤ 非凡交純

高野山 目枝山 妙名 非戒 又 意

⑥ 戀之詞

恋 恋の心 恋の詞 恋の意 恋の衣 恋の衣 恋の衣

思 思の心 思の詞 思の意 思の衣 思の衣 思の衣

情 情の心 情の詞 情の意 情の衣 情の衣 情の衣

洞 洞の心 洞の詞 洞の意 洞の衣 洞の衣 洞の衣

恨 恨の心 恨の詞 恨の意 恨の衣 恨の衣 恨の衣

憂 憂の心 憂の詞 憂の意 憂の衣 憂の衣 憂の衣

憂 憂の心 憂の詞 憂の意 憂の衣 憂の衣 憂の衣

姪は是れ下長者嫂妻親子伯父伯母
 祖父祖母姑舅娘姪孫後家兒尉内傳母
 御師結老吏仕丁野良傾城白拍子湯女道心者
 屠見男女友連内義師近唱念回宿
 新發之鴉士橋馬舟長鞆密更酒の碎是強
 許扣孤吉野の國栖身入狂人儒の愛は必
 孔子私田と皆皆人倫之其よりらに依成る人倫とらん家と
 切るといふことあり 儒者ハ人倫とらんといふことあり

聖 非人倫綱

東宮皇女門跡公家帝宮親王女院本院
 仙洞新院太子大臣人倫入道正朝仙人也と
 門一家六親を行親式給仕典業下戸眷屬
 祖師橋本親王本道外科二人老翁活大境
 海攝人識聾耳啞盲月代髪月と交親と月と
 乃とていふは酒よ碎めり也

寺台室ノ筑心堂皇后内裡塔依藍の又宮ノ
社眠花庫主心柱多去寺堂名籠ノ

聖ノ夜分之綱

神不目まらの星七夕夢多想冥冥霧霧
縮妻宵や之曙曉とと雪乃あれ月之テ
月乃入の方あの時疏暗東雲敷之梓双綿任者以布炬灯影挑燈行燈燭臺漢火

死火煙火扇更て床らくくとほ火をどろ
又夜しびの狐照射蚊之火鶴別の鳥籠
籠昔延乃は犬かくく書くそく紙東雲
蝙蝠螢粘糸わづ火短敷送り火油燭
仲実斗ねごと博深起衾後時巾燭
不燭舞じのと枕敷扇高の夜初多粘川
砥得人鬼蒲固紗灯你文は空燒火燦々

龍河 龍河川 本為河 鈴麻川 小野
吉野 岩橋 松人 炭焼 河川 水
室 下 荻 後 越 山 嶺 松 人 池 三 崎 亭
治 河 崎 岩 屋

巽水也之洞 多のぬ水也のふ

海浦 溪 尾 江 濠 渚 崎 伸 岸 治 河 水 池

瀬 洞 泉 井 濠 津 崎 流 湫 波 湖 氷 流 舟 橋
磯 細 釣 貝 湯 水 剛 伽 水 室 水 柱 温 泉 塩 燒
浮 木 水 鳥 釣 籠 笕 下 樋 原 桶 齋 壺 池 士 狸
和 布 丸 釣 壺 水 鶴 守 天 子 多 都 多 鳥 鶴 藻
任 出 泉 鑿 乃 以 橋 作 交 津 不 教 堂 云 御 後
溪 平 溪 漂 零 木 水 層 地 結 藻 之 燒
溪 蓮 芦 溪 荻 枯 菊 菖 蒲 ちやめ 高 鷹 澤

蓮葉のまゝ カウライ

依子 シロカ 押紙 シロカ 年 シロカ

破 シロカ 練打 シロカ

初高 シロカ 店印 シロカ 三物 シロカ 叔 シロカ

初高 シロカ 店印 シロカ 三物 シロカ 叔 シロカ

初高 シロカ 店印 シロカ 三物 シロカ 叔 シロカ

初高 シロカ 店印 シロカ 三物 シロカ 叔 シロカ

初高 シロカ 店印 シロカ 三物 シロカ 叔 シロカ

初高 シロカ 店印 シロカ 三物 シロカ 叔 シロカ

初高 シロカ 店印 シロカ 三物 シロカ 叔 シロカ

初高 シロカ 店印 シロカ 三物 シロカ 叔 シロカ

初高 シロカ 店印 シロカ 三物 シロカ 叔 シロカ

初高 シロカ 店印 シロカ 三物 シロカ 叔 シロカ

初高 シロカ 店印 シロカ 三物 シロカ 叔 シロカ

初高 シロカ 店印 シロカ 三物 シロカ 叔 シロカ

初高 シロカ 店印 シロカ 三物 シロカ 叔 シロカ

初高 シロカ 店印 シロカ 三物 シロカ 叔 シロカ

白馬節會 七日 七日正月 靈辰日

人日 七日 帳 七日 人 七日 正月 靈辰日

事 七日 箕尾富実 七日 玄書院 御修治 宿主人

御斎 八日 女叙位 八日 女王様と侍人 八日

大元師法 八日 常陸常乃神事 十日 鹿嶋乃 明神乃

除月 十日 帳岡 十日 縣召乃

節會 十日 論義 十四日 男端款 十四日 年

戒 總史 三述打 十日 花炮 十日 唐乃火

上元日 十五日 御新 十日 花炮 十日 唐乃火

小豆粥 十日 神事 十日 賭博 十八日

厄神 十九日 龜民 二十日

師子 二十日 神事 二十日

師子 二十日 神事 二十日

師子 二十日 神事 二十日

師子 二十日 神事 二十日

師子 二十日 神事 二十日

師子 二十日 神事 二十日

師子 二十日 神事 二十日

師子 二十日 神事 二十日

師子 二十日 神事 二十日

師子 二十日 神事 二十日

吉田清稜 十九日 具足清後

二十日正月 魚解之

伊都波鴻

外記乃改作 柳忌 福寿草

節振樂 東風 少少之

凍らく 魚少

雪水之

雨乃節 柳魚と糸 水鳥轉

下りえ 莖之 雲菜 水入菜

梅 根白草 茨子

野大根 梅 根白草 茨子

野大根 梅 根白草 茨子

野大根 梅 根白草 茨子

野大根 梅 根白草 茨子

野大根 梅 根白草 茨子

野大根 梅 根白草 茨子

野大根 梅 根白草 茨子

野大根 梅 根白草 茨子

野大根 梅 根白草 茨子

野大根 梅 根白草 茨子

野大根 梅 根白草 茨子

木地燵縁

依保娘

三月三日

乃ざら

暖日

水あらし

河還

ぬき糸

ぬき糸

万々楽

春馬將

梅がえり

大芥

子日夜

當袖柳のさぬ

松乃花

みどり

みね

十カケ

霞

三月五日

八重

鼠乃衣

おみね

一カケ

霞

白魚

月乃

手緒

青苔

かごり

松乃乃

葩

山椒乃枝

野老

云々

霞乃洞

去麻気

函

三月

仲夏 夾後 卯月 小春生月

和節

用日

藝公節

初年

初年

東福寺

水間寺初午

本妙寺

糸

扶生子

糸

釋眞

并十哲

春日糸

園

韓神

糸

大原野糸

上卯日

祈年糸

四日

月乃糸

祇園八講

列見

入解年扶納言外記史

吉野乃餅

とくろしたた政友

此良乃八講 二月堂仍出

遺教 九日 佛乃別 二月 積塔 十六日

法苑柱炬 十五日 與福古考 積塔

法苑柱炬 十五日 與福古考 積塔

法苑柱炬 十五日 與福古考 積塔

法苑柱炬 十五日 與福古考 積塔

法苑柱炬 十五日 與福古考 積塔

法苑柱炬 十五日 與福古考 積塔

法苑柱炬 十五日 與福古考 積塔

法苑柱炬 十五日 與福古考 積塔

法苑柱炬 十五日 與福古考 積塔

法苑柱炬 十五日 與福古考 積塔

法苑柱炬 十五日 與福古考 積塔

法苑柱炬 十五日 與福古考 積塔

法苑柱炬 十五日 與福古考 積塔

法苑柱炬 十五日 與福古考 積塔

法苑柱炬 十五日 與福古考 積塔

法苑柱炬 十五日 與福古考 積塔

法苑柱炬 十五日 與福古考 積塔

法苑柱炬 十五日 與福古考 積塔

太子御讀經 二日 灸 同出替 波岸時時宗

新取勝會 十九日 法間祭 天王寺之聖

聖 北野 道明寺 九日

躍念佛 踏哥乃後宴

長八初 鳥志巢

多乃鶴 雛子 鳥

細多 蛇 松花鳥

海子 松花鳥

雲雀 松花鳥

蝶 蜂巢 蛇 蠅

蜂巢 蛇 蠅

蜂巢 蛇 蠅

蜂巢 蛇 蠅

死に波 死の鈴 死鳥 死の丸 死の丸

死の舟 死の舟 死の舟 死の舟 死の舟

死に舟 死の舟 死の舟 死の舟 死の舟

死に舟 死の舟 死の舟 死の舟 死の舟

死見車 死に舟 死に舟 死に舟 死に舟

死に舟 死に舟 死に舟 死に舟 死に舟

死の都 死に舟 死に舟 死に舟 死に舟

死に舟 死に舟 死に舟 死に舟 死に舟

死守 利本 死に舟 死に舟 死に舟

死に舟 死に舟 死に舟 死に舟 死に舟

通茶の死 杏子の死 李の死 藤木の死

死に舟 死に舟 死に舟 死に舟 死に舟

死に舟 死に舟 死に舟 死に舟 死に舟

死に舟 死に舟 死に舟 死に舟 死に舟

死に舟 死に舟 死に舟 死に舟 死に舟

死に舟 死に舟 死に舟 死に舟 死に舟

死に舟 死に舟 死に舟 死に舟 死に舟

表の毛 莖 つらとまれ 芽をぬく 物杞
 新茶 古茶 かの茶 九瀬茶 馬鹿茶
 茶の毛 加らふの茶 秋茶 松茶 化俗茶 下子茶
 えびの 金鳳花 華勝 他俗茶
 眉他乃 一級は元茶 仙臺茶 可植替
 虎杖 三葉芹 茗荷竹 三月茶 六月
 金鏡花 鶏爪茶 乃死 びんすい 乃流
 雲雨 二月 汝生 心 山 衣
 表白 表赤 表 山 衣

表くらん 表の毛 表の毛 表の毛
 朱明 昊天

四月

卯月 卯月 得志 卯月 辰月 巳月 午陽 卯月
 首夏 孟夏 中呂 初夏 余月
 更衣 一日 白重 衣の四乃 表の毛
 之の可始 水 一日 孟夏 分 一日 扇 廣 表の毛
 科条 日 平野 条 上申 松尾 条 日 大神 条 三輪
 条 大糸 日 松本 条 日 西家 条 上西 日 梅宮 条 日

水屋法

三月四日 昔

廣洲

龍田系

四月

山崎月使

三月八日 願系

辰月

擬階奏

三月列又此時

鷹号入鳥屋

灌佛

八日 仏生會 社務會 儀備

多族系

上巳

戒壇堂用帳

八日 山崎系

伊勢神衣系

四月

幡系

卯日

平安天神系

中山系

吉田系

中酉脚形

白井系

三枝系

十子

十六日

廣海系

日向神系

久世系

清收地

當廣

法事

法珠會

日光系

菅宮

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

敬西 黄栌 敬 虎が洞雨 十八日 祇園法楽 忍

守夏生 五月の中 富士垢離 蝉の初夜

常言と入 去蕪刈 藻乃む 藻とく向

藤刈糸 澤丸丸 和布刈刈 百合 姫ゆり

車百拾 茨乃丸 貯るるり丸丸 宗陽

茶 四ひ丸 末摘丸 花の 花れ茶丸丸 下野

花か 石高 花高蒲 金銀丸 忠冬

蕙 花高の心て 交氣 花高の心て 朝房草

辰盆子 木のらとくらのらと 天蓼 教帳糸

妙こむみ乃丸 麦飯 小松尊

薬 芥子 早丸 芥菜

菊天乃丸 生胡桃 死板

極 柿の丸 炭陽柳乃丸 橋

標 くららか 花丸 花丸

杏子 枇杷 喜山椒 青竹 子不女

回可 子苗 青田 回可

祇園會 七日 長刀鉾 妙高寺 月夜の御祭

都巨山 盃家山 琴坂山 くらと川やま 天保山

おー同 十一日 梶舟家山 三ツ山 八ツ山 祝喜山

津守家 十四日 多事りりりりり 糞田家 十四日

いんを志波家 十五日 竹生持家 十四日 伊豆山

王奈家 十一日 桐家 十三日 祇園修内家 十一日

七か定食 十六日 伊勢家 十六日 伊豆山

多事りりり 十六日 志波寺家 十七日 花沢乃源 十九日

富士詣 一日より 市 御衣洗 十九日

難乃作切 北 岩子日宿 十四日 橋立家 十五日

天護天神の御後 十五日 大坂産 十六日

狹路水 正月 佐吉の御後 日

大坂 二十日 桜川 折 二十日 二月とある

大坂 二十日 桜川 折 二十日 二月とある

大坂 二十日 桜川 折 二十日 二月とある

大坂 二十日 桜川 折 二十日 二月とある

大坂 二十日 桜川 折 二十日 二月とある

新八揚 毛年天玉揚民 夏かぐら はく

川社 夏後川志 小蠅 小蠅の

道 道 施米 施米

雷 雷 小暑 小暑

大暑 大暑 温風 温風

腐 腐 天魁節 天魁節

去用 去用 扇 扇

日傘 日傘 新井 新井

心 心 水 水

扇 扇 行持 行持

風 風 雲 雲

水 水 麻 麻

心 心 心 心

心 心 心 心

心 心 心 心

心 心 心 心

心 心 心 心

葛水 丁版 煮冷 赤良漬 梅

はく 反切茶 梅ひき 子桃 櫻梅

李 林檎 百日紅 松子 櫻梅

蓮 白蓮 紫菀 紫菀 紫菀 紫菀 紫菀

写 洒骨 菱花 蒲乃核

海堂 荒布 竹乃皮取

菌 鉄線草 眼皮 凌霄花

海草 虎尾乃毛 風蘭 釣鐘菜 銀

寶珠 麒麟草 村干 青石灯

忘憂 赤草 麻 茗荷 葛花 綿

乃心 香薷散 南瓜 蒜乃根 瓜

益氣 乃心 瓢箪 小角豆 竹乃花

鷓鴣鷹 蝉 蟹

夏虫 日暮 蟹

蟹 蟹 蟹 蟹 蟹 蟹 蟹 蟹 蟹 蟹

蛸

毛虫

金龜子

蠓

蠅

蜻蛉

鯉釣

海月取

仲鱈

グ

霍乱

掛香

任吉耀

藍刈

胃

揚

秋

秋乃勝

秋乃勝

秋乃勝

七月

涼月

孟秋

初秋

孟月

夷則

相月

立秋

秋の入り

初涼

新涼

織暑

日楸

葉

葉の落ち

葉

葉の落ち

柳

柳

楊柳

楊柳

楊柳

楊柳

六日

七夕

七夕

七夕

七夕

七夕

七夕

七夕

七夕

七夕

七夕

七夕

七夕

七夕

七夕

七夕

七夕

七夕

わやがの端 ハナラサキ 花堂 ハナドウ 藍乃花 アイノハナ

壇特茶 タントクチャ 月草 ツキクサ 葛 クワ

野菊 ノキク 鳳仙花 ホウセンカ 鶏冠花 ケイコウカ 金剛草 コンゴウクサ

百夜草 ヒャクヤクサ 通草 トウクサ 藜 シロネ 鴨上戸 カモノウエ

毛 モウ 苗香実 ネムキヤカシ 虻 アハ 牛虻 ウシバチ

松丹 マツニ 根 ネ 牛虻 ウシバチ

茶 チャ 葛 クワ 薯蕷 ショウユ 菖蒲 ショウブ

茶 チャ 茶 チャ 茶 チャ 茶 チャ

綿 ワタ 衣 イ 雁 ガン 小鳥 コトリ

燕 ツバメ 鴉 カラス 雁 ガン 小鳥 コトリ

燕 ツバメ 鴉 カラス 雁 ガン 小鳥 コトリ

燕 ツバメ 鴉 カラス 雁 ガン 小鳥 コトリ

燕 ツバメ 鴉 カラス 雁 ガン 小鳥 コトリ

燕 ツバメ 鴉 カラス 雁 ガン 小鳥 コトリ

燕 ツバメ 鴉 カラス 雁 ガン 小鳥 コトリ

燕 ツバメ 鴉 カラス 雁 ガン 小鳥 コトリ

ひろく 入らざりてしはりてきあひつた
 川さし ありたり みるはらひ ともこ
 もとの 小倉 かりたり 秋の葉 かりたり
 ともとの 夜打 かりたり ちり魚 かりたり
 後継る 下葉 かりたり 種葉 かりたり
 無角 無角 初結 無角 種葉 無角
 野分 八月五日 初結 無角
 痛葉 痛葉 痛葉 痛葉
 八束後 後 西栗川

釋川 安山 山 しがた 汁板 鳴子

九月

九月 九月 九月 九月 九月 九月 九月 九月 九月 九月
 重陽 重陽 重陽 重陽 重陽 重陽 重陽 重陽 重陽 重陽
 御燈 御燈 御燈 御燈 御燈 御燈 御燈 御燈 御燈 御燈
 桂の文相撲 泉涌寺舍利會
 醍醐祭 御香 文祭 依見 鞠 日祭
 貴布祢祭 生玉 祭 四代 文祭

高野祭 十日 例幣 十日 佐吉相撲會 十日 白河祭 十日 後は名月

吉原市 十三日 白河祭 十日 後は名月

十五日 小倉祭 十五日 幼學會 九月 栗倉祭 十四日 岩倉祭

神田明神祭 同日 度會新嘗 同日 栗倉祭 十四日 岩倉祭

會 十六日 愚考祭 同日 山口祭 同日 吳服祭

十八日 波女利女祭 同日 城南寺祭 九月 猿庚

天王寺法縁灌頂 同日 友奈祭 同日 後祭 同日

天満病流馬 同日 本懐祭 同日 鏡台祭 同日

送仙女祭 同日 小山祭 同日 福王神 祭 同日 福王神

祭 同日 付村 同日 野々宮乃別 同日 榎川の御

定 霜乃祭 同日 荏蛤とる 同日 粟乃の

菊 南園 同日 残子菊 同日 九月小納

菊 重乃衣 同日 紅葉衣 同日 霜降乃祭 同日

菊 重乃衣 同日 紅葉衣 同日 霜降乃祭 同日

菊 重乃衣 同日 紅葉衣 同日 霜降乃祭 同日

菊 重乃衣 同日 紅葉衣 同日 霜降乃祭 同日

菊 重乃衣 同日 紅葉衣 同日 霜降乃祭 同日

菊 重乃衣 同日 紅葉衣 同日 霜降乃祭 同日

菊 重乃衣 同日 紅葉衣 同日 霜降乃祭 同日

菊 重乃衣 同日 紅葉衣 同日 霜降乃祭 同日

菊 重乃衣 同日 紅葉衣 同日 霜降乃祭 同日

菊 重乃衣 同日 紅葉衣 同日 霜降乃祭 同日

菊 重乃衣 同日 紅葉衣 同日 霜降乃祭 同日

ラカニキ

威獣とまのふ 紅葉

と足あふとあうしちうらる

紅葉の葉

川のお葉

赤い葉

桜紅葉

木菘

木菘

柘

柘

柘

柘

楓

楓

楓

楓

楓

楓

梯紅葉

梯紅葉

梯紅葉

梯紅葉

梯紅葉

梯紅葉

枝紅葉

枝紅葉

枝紅葉

枝紅葉

枝紅葉

枝紅葉

金栴

金栴

金栴

金栴

金栴

金栴

佛手栴

佛手栴

佛手栴

佛手栴

佛手栴

佛手栴

雲別栴

雲別栴

雲別栴

雲別栴

雲別栴

雲別栴

胡桃

梨

梨

梨

梨

梨

茶栴

茶栴

茶栴

茶栴

茶栴

茶栴

椽乃

椽乃

椽乃

椽乃

椽乃

椽乃

栴乃

栴乃

栴乃

栴乃

栴乃

栴乃

橙

橙

橙

橙

橙

橙

栴

栴

栴

栴

栴

栴

栴

栴

栴

栴

栴

栴

栴

栴

栴

栴

栴

栴

おのころの 燵槽と食 一日夜は薪焚 進炉と灰 燵槽舎

おぼろ 一日夜は都の法人 亥子乃餅 十月

冬立 後まきするまじ 村場作 五日 残雪宴 五日

冬立 他てゆてふまき 遠上 五日 十夜乃 五日 云仏 十五日

真福寺法 六日 維广舎 十日 金山野 十日

御講 十三日 下元日 十月 水宿解厄 十日

東福寺 十六日 夷講 十日 大社祓事 十日

神集 出雲 神八留主 十日 小雲節 十日

十月 ハウロウ 法務の大業 九四日 燵開 火燵き

火掃 相火 桑乃切 神海 柳 川

河内 松ゆの 志 柳 柳 柳

青 青 葉 葉 木 木

柳 柳 柳 柳

枯野乃 枯野

葛 葛

枇杷乃 枇杷 葉 葉 心 心 葉 葉 冬 冬 社 社 丹 丹

曆表 一週 朔旦冬至 十月朔日冬 芝居新元世

一陽乃赤節 十月八日陽月 宮城 源

禮とてしるる 履とて 相堂

系 上卯日大和住吉大社 穴所 眞智と富葛木鴨紀伊系

系 日若等れ非とてのく友樹と後死とてのあ

系 上卯 山科系 上早野系 市春

系 上卯 松本系 日 當上系 率川系 日 梅

系 上卯 高宗系 日 申山系 日 松尾系 日

大原野系 日 園鞞神系 中 吉田系 申日

日 系 日 将乃使 五帝 長島

系 日 将乃使 交中 系 系

系 日 将乃使 系 系

系 日 将乃使 系 系

系 日 将乃使 系 系

系 日 将乃使 系 系

系 日 将乃使 系 系

系 日 将乃使 系 系

系 日 将乃使 系 系

長之 某 教訓 草 たり 好 為 委 力 事

意 近 進 多 侍 煖 多 定 甚 言 煉 少 少

紫 之 初 神 鮎 石 花 樹 史 魚 ぬ 切 る 事

紫 之 初 神 鮎 石 花 樹 史 魚 ぬ 切 る 事

紫 之 初 神 鮎 石 花 樹 史 魚 ぬ 切 る 事

紫 之 初 神 鮎 石 花 樹 史 魚 ぬ 切 る 事

紫 之 初 神 鮎 石 花 樹 史 魚 ぬ 切 る 事

紫 之 初 神 鮎 石 花 樹 史 魚 ぬ 切 る 事

紫 之 初 神 鮎 石 花 樹 史 魚 ぬ 切 る 事

紫 之 初 神 鮎 石 花 樹 史 魚 ぬ 切 る 事

紫 之 初 神 鮎 石 花 樹 史 魚 ぬ 切 る 事

紫 之 初 神 鮎 石 花 樹 史 魚 ぬ 切 る 事

紫 之 初 神 鮎 石 花 樹 史 魚 ぬ 切 る 事

紫 之 初 神 鮎 石 花 樹 史 魚 ぬ 切 る 事

紫 之 初 神 鮎 石 花 樹 史 魚 ぬ 切 る 事

紫 之 初 神 鮎 石 花 樹 史 魚 ぬ 切 る 事

紫 之 初 神 鮎 石 花 樹 史 魚 ぬ 切 る 事

紫 之 初 神 鮎 石 花 樹 史 魚 ぬ 切 る 事

紫 之 初 神 鮎 石 花 樹 史 魚 ぬ 切 る 事

紫 之 初 神 鮎 石 花 樹 史 魚 ぬ 切 る 事

紫 之 初 神 鮎 石 花 樹 史 魚 ぬ 切 る 事

乙子丸 朝日 忌火 御飯 一日六月

大 神 祭 上 祭 日 天 智 天 皇 御 御 忌 音

御 時 御 上 奏 月 決 祭 日 御 佛 名 御 忌 音

被 給 又 仁 代 寺 作 栢 梨 鉢 盃 御 佛 名 御 忌 音

御 發 上 下 午 日 務 人 命 御 佛 名 御 忌 音

像 大 聖 日 德 中 四 方 門 日 後 湯 御 佛 名 御 忌 音

着 袴 乃 政 大 聖 日 德 中 四 方 門 日 後 湯 御 佛 名 御 忌 音

寺 之 儀 十 音 温 轉 粥 八 粥 大 德 寺 完 心 忌 音

着 袴 乃 政 大 聖 日 德 中 四 方 門 日 後 湯 御 佛 名 御 忌 音

寺 之 儀 十 音 温 轉 粥 八 粥 大 德 寺 完 心 忌 音

一ノ弟ニ其後ハ上ノ句ト類例ニシテ其中心ノ一ノ句
月ハ句又二ノ句ノ後ハ概等ノ句ハ句ト其亦七ノ句
分ノ句ト定ムル也

八句七句ヨリ子細ニテ此知リテ其後ハ句ト定ムル也自然ハ

方ノ一ノ又面ノ中同字ハ句ト定ムル也

二句トクマニニ其後ハ句ト定ムル也

裏連神トカハリテ九句ヨリ其後ハ句ト定ムル也

三ノ句ハ句ト定ムル也

植物科ノ句ト定ムル也

ハ句ト定ムル也

裏初ノ一ノ句ト定ムル也

奉ノハ句ト定ムル也

ハ句ト定ムル也

ハ句ト定ムル也

三折ノハ句ト定ムル也

ハ句ト定ムル也

此種乃心をあやしむ河のりやうのりも遠り
けうのれんれんめいふくさるる句作の何置まうくへん一後句
れれ者めりひいそそるるの後めりしとて又初の一呪よ
れれもれりあくとを奉句れれ乃れ但て又後句よある
又字を筆之

●百韻月紀定座

面八句 七句の月紀定座

二面六句 十三句の月紀定座

三面十四句 二面十四句

野十四句 十句のり月紀定座
十三句の夜の定座あり

二裏十四句 白のりしとてあり

三裏十四句 二のりしとてあり

●百韻月紀定座

百韻月紀乃句いそ後乃をれれんし切者よゆぐりて神妙なる
なすりしとて又何のりしとて又下随しとてあり

●四十四

三乃おをぬさるる他之月紀乃をいし百韻乃はこ同なり
三乃おをぬさるる他之月紀乃をいし百韻乃はこ同なり

●歌仙代巻

面六句 五句の月紀定座

名残面十二句 七句の月紀定座

名残面八句 月あし七句の夜乃
定座あり

裏十二句 八句の月紀定座あり
七句の夜の定座あり

名残裏六句 五句の夜紀定座あり

純孝乃の侍りて

一純孝乃の侍りて天事此のし其席乃魚を食も純孝次

弟又とてりて此の志ありて

二此の志ありて此の志ありて

三此の志ありて此の志ありて

四此の志ありて此の志ありて

五此の志ありて此の志ありて

六此の志ありて此の志ありて

七此の志ありて此の志ありて



